

令和7年度 病害虫発生予察注意報 第4号

令和7年9月25日

千葉県農林総合研究センター長

シロイチモジヨトウによるネギの食害に引き続き注意

1. 注意報の内容

- (1) 対象作物及び病害虫名：ネギ、シロイチモジヨトウ
- (2) 発生地域：県内全域
- (3) 発生量：多

2. 注意報発令の根拠

- (1) 令和7年8月13日付け注意報第3号の発表以降、県内4地点のフェロモントラップ調査において、シロイチモジヨトウ（写真1～3）の誘殺数が高い水準で推移している。8月の1日当たり誘殺数は7.20頭（平年2.31頭）と7月に続き、発生の多かった前年を上回り、過去8年と比較して最も多かった（図1）。
- (2) フェロモントラップ誘殺数のピーク（9月下旬～10月上旬）以降も孵化した幼虫がネギ葉身内に食入するため、適切な防除がされない場合、食害の拡大が懸念される。
- (3) 9月上旬に県内10地点で行った秋冬ネギの病害虫発生予察調査において、シロイチモジヨトウによる被害株率は9.60%（平年1.80%）で過去10年と比較して2番目に高かった（図2）。
- (4) 9月18日に発表された気象庁の1か月予報によると、関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い確率が80%と、チョウ目害虫の発生・増加に好適な環境が続くことが予想されるため、被害の拡大が懸念される。

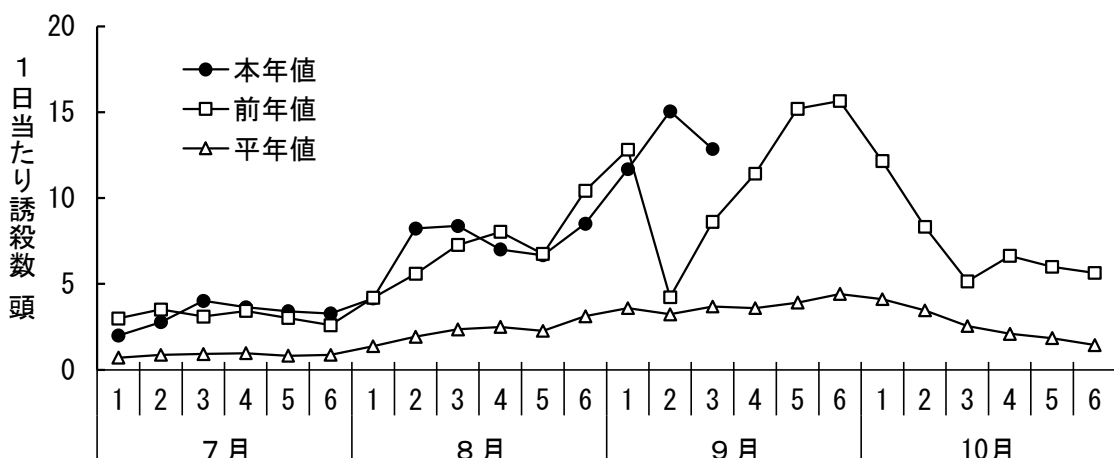


図1 フェロモントラップ調査におけるシロイチモジヨトウ誘殺数（7～10月、半旬毎）

注）県内4地点の平均値



写真1 幼虫
(胴部側面の明瞭な白線が本種の特徴)



写真2 幼虫とネギ葉身内に堆積した糞



写真3 食害を受けたネギ
(葉身の内側から表皮を残して食害)

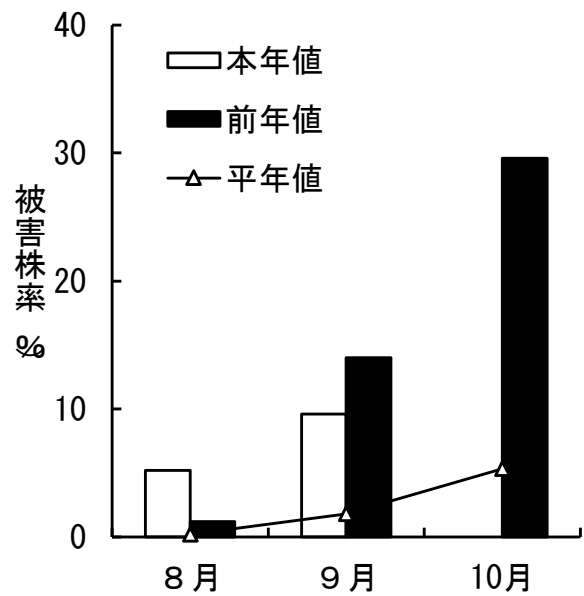


図2 8～10月の上旬調査における
シロイチモジヨトウ被害株率の推移
(9月調査終了時点、前年値の8～10月
は過去10年で最も高かった)

3. 防除対策

- (1) ほ場をよく観察し、卵塊や若齢幼虫が群棲している葉を見つけ次第、除去する。
- (2) 齢が進んだ幼虫はネギ葉身内に食入し、薬剤がかかりにくくなり、かつ薬剤の効果が低下するので、ほ場の見回り等による早期発見に努め、若齢幼虫のうちに表を参考に薬剤散布等により防除する。

表 ネギにおけるシロイチモジヨトウに対する防除薬剤（令和7年9月18日現在）

IRACコード ※1	薬剤名	希釈倍数・散布液量	使用時期	使用回数※2
5	ディアナSC	2,500～5,000倍 100～300L/10a	収穫前日まで	2回以内
6	アニキ乳剤	1,000～2,000倍 100～300L/10a	収穫3日前まで	3回以内
13	コテツフロアブル	2,000倍 100～300L/10a	収穫7日前まで	2回以内
22A	トルネードエースDF	1,000倍 100～300L/10a	収穫14日前まで	2回以内
30	グレーシア乳剤	2,000～3,000倍 100～300L/10a	収穫7日前まで	2回以内
30	ブロフレアSC	2,000～4,000倍 100～300L/10a	収穫前日まで	3回以内
UN	プレオフロアブル	1,000倍 100～300L/10a	収穫3日前まで	4回以内

※1 IRACコードとは、殺虫剤の作用の仕組みの分類を表すものである。薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一コードの薬剤を連用しない。

※2 薬剤名が異なっても同じ成分を含む薬剤があるので、散布前に確認し、同じ成分がある場合、合計使用回数が制限を超えないように注意する。

注 農薬の使用に当たっては、最新の農薬登録情報を確認し、製品ラベルに記載された使用基準等を守り適正に使用する。

- ・病虫害発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>

- ・薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。

<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病虫害防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp

